

平成25年度第1回東京都入札監視委員会審議概要

開催日及び場所	平成25年4月22日(月) 東京都庁第一本庁舎33階 特別会議室N2 平成25年4月24日(水) 東京都庁第二本庁舎31階 特別会議室25										
出席委員	<table border="0"> <tr> <td>元 東京都地方労働委員会事務局長</td> <td>立花 壯 介 (委員長)</td> </tr> <tr> <td>弁 護 士</td> <td>岩 島 のり子 (委員長職務代理者)</td> </tr> <tr> <td>上智大学法学部法律学科准教授</td> <td>楠 茂 樹</td> </tr> <tr> <td>日本女子大学家政学部住居学科教授</td> <td>定 行 まり子 (4月22日のみ)</td> </tr> <tr> <td>弁 護 士</td> <td>菅 沼 聖 也</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(敬称略・計5名)</p>	元 東京都地方労働委員会事務局長	立花 壯 介 (委員長)	弁 護 士	岩 島 のり子 (委員長職務代理者)	上智大学法学部法律学科准教授	楠 茂 樹	日本女子大学家政学部住居学科教授	定 行 まり子 (4月22日のみ)	弁 護 士	菅 沼 聖 也
元 東京都地方労働委員会事務局長	立花 壯 介 (委員長)										
弁 護 士	岩 島 のり子 (委員長職務代理者)										
上智大学法学部法律学科准教授	楠 茂 樹										
日本女子大学家政学部住居学科教授	定 行 まり子 (4月22日のみ)										
弁 護 士	菅 沼 聖 也										
審議事項	総合評価(技術力評価型・技術実績評価型)方式の評価方法の見直しについて										
議案の概要	<p>○ 総合評価(技術力評価型及び技術実績評価型)方式において、極端な低価格入札があった場合に、技術と価格のバランスを考慮して落札者を決定するという総合評価方式の趣旨が十分に生かされていない面がある。このため、技術力の低い企業が極端な低価格入札を行った場合でも技術力の高い企業が技術力により逆転できるように、調査基準値を下回る入札で得られる価格点の上昇率を補正し、また、技術力評価型総合評価方式においては、価格点と技術点とのバランスを考慮し、価格点の上限値の補正も併せて行う。</p>										
委員会による報告	<p>○ 総合評価(技術力評価型・技術実績評価型)方式の評価方法の見直しについて了承する。</p> <p>○ 見直しの対象とした総合評価方式の試行は、技術力と価格競争力に着目して中長期的に公共財の品質を確保することをひとつの目的としている。その試行及び見直しに当たっては、事前のシミュレーションをできる限り行い、所期の効果が得られたか、想定経路を通して得られた効果か、副作用が生じていないか、また、想定が外れた場合はその原因が何か等、事前想定と実施結果を継続的に分析、検証することにより、公共調達の一層の改善を進められたい。</p>										

<p>委員からの意見等の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 制度改正の目標が社会資本整備を適切に行っていくというなら、それを一貫し、ぶれないでほしい。 ○ 安全な公共財を確保するというのが出発点だと思うので、それを実現するためにこうした入札制度で業者を選ぶということを合理的に説明できるかどうか重要である。 ○ 都では総合評価方式の適用拡大を図ってきた結果、入札に占める割合が平成23年度の実績として12%ほど出てきた。こうした中でこういう議論が現実にならなくなった。さらに総合評価を試行し検証をして、改善をしていくことが非常に重要だと思う。 ○ 過去のデータの動き方など事前にできる限りシミュレーションをし、所期の目標に対してシミュレーションが外れた場合はその原因を探っていくのがPDCA。場当たり的にならないようにすることが重要である。 ○ 導入の効果について、必要なデータを揃えて継続的に分析検証を行い、適切に運用されることを前提に試行を進めていくべきである。
<p>部会報告</p>	<p>平成24年度第1回東京都入札監視委員会決定に基づき、東京都入札監視委員会部会として、楠部会長及び立花委員が、次のとおり都と業界団体との意見交換会に参加したことから、平成24年度第3回東京都入札監視委員会に引き続き、委員会に対して部会報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成25年1月17日（木）（楠部会長・立花委員出席） <ul style="list-style-type: none"> ・社団法人 東京都中小建設業協会 ○平成25年2月6日（水）（楠部会長・立花委員出席） <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 東京空調衛生工業会
<p>委員からの意見等の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競争が激しければ業者数が減っていくが、そのときにいい業者が残っていくために何らかの形できちんと仕組みを作っていくことについて、都としては判断しなければならないと思う。 ○ 都としては、どのような市場にしたいのかということについての明確な目標とそれに対する議論というのが明確であればと思う。ただ、それは最初から結論が出ているわけではないので、試行錯誤するしかなく、その中で、どういうものを導いていくのかということだと思う。 ○ 業界団体が言っていることは実態に対する1つの説明であり、都として受け止めなければならないということであれば、制度なり運用に反映させなければならず、その見極めと説明が説得力のあるものになるかがポイントだと思う。